

中学校区におけるめざす子ども像 **心を育み、学び合い、よりよく生きる力を身につける子**

堺市立南八下小学校
校長 木嶋 美雪

令和8年度 重点目標 **楽学 私たちが楽しく学ぶ！ 私たちの楽しい学校！**

確かな学びの現状

- 探究活動(生活・総合)を軸とした学びは充実しているが、教科での「見方・考え方」との往還が不十分である。
- ICT環境は整備されているものの、情報の収集に偏り、分析・表現・協働への活用に差がある。
- 基礎的な力は概ね定着しているが、論理的思考・語彙力・メタ認知を伴う深い学びに課題がある。
- 「問い」から学びを進める授業は進みつつあるが、単元全体での探究設計の精度にばらつきがある。

豊かな心・健やかな体の現状

- 全体として落ち着いた学校生活が送れているが、自己表現・自己肯定感に個人差がある。
- 行き渋り・不安傾向の児童に対し、寄り添う支援の質と組織的連携のさらなる強化が必要。
- 「行動の前に感情に寄り添う」指導は浸透しつつあるが、個々の教員の実践差が見られる。
- 体力面では運動機会の差があり、日常的な運動習慣の定着が課題。
- デジタル活用が進む一方で、デジタルシティズンシップ(DC)の理解・実践に差がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	生活・総合的な学びを軸とした探究的な学び、社会につながる学びの実現		社会的な課題を考える中で、自分の生活と結び付け、行動改善につながる提案ができる	年度末の楽学フェスにて提案	当日の発表	年度末			
			ICTを活用した ・比較(共有・可視化)・分析(思考の深まり) ・表現(多様なアウトプット)	「自分の考えを表現できる」肯定率 70%以上	アンケート	年度末			
	「問い」を起点に、見方・考え方を働かせながら、自ら学びを構築し、表現できる児童の育成	単元レベルでの探究サイクル設計(問→収集→分析→表現→振り返り)の徹底 ・各教科で「見方・考え方」を明示した授業づくり	「自分で問いをもって学習している」肯定率 70%以上	アンケート	年度末				
			パフォーマンス課題+ルーブリック評価の実施	パフォーマンス課題のB評価以上を80%	教科の単元ごと	学期末			
			・教科担任制・チーム担任制による専門性向上	各種学力調査の結果の向上	学力調査	2学期			
豊かな心・健やかな体	「行動の前に感情に寄り添う」支援を基盤に、安心して学びに向かえる関係性の構築		・寄り添う支援の3ステップの徹底 ①共感(感情)②整理(事実)③提案(行動)	「学校が楽しい」肯定率 80%以上	アンケート	年度末			
			校内支援体制(支援委員会・SC・関係機関連携)の強化	「困ったときに相談できる」肯定率 70%以上	アンケート	年度末			
			児童会・委員会活動による主体性の育成	児童会による啓発活動 月1回程度	実施回数	年度末			
体力向上健康推進			日常生活の中でできる取り組みについて立案、実施	実施内容や回数	全国体力・運動能力調査等	年度末			
			ケガなど未然防止や、体調管理を推進	保健室の訪問記録と内容の分析	訪問記録数	年度末			
地域との連携	中学校区・地域との連携社会との関りを深める		3校で同じゴールを見据えて、教職員の連携を強化し、共有できることを増やす	教員同士のつながりの機会を設ける	合同研修の実施と振り返り	年度末			
			校区を超え区や市、大学や企業などにも関わり本物に触れる機会を増やす	地域人材の活用や企業などに関わる活動の推進	実践報告と発信	年度末			

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)